

南新宿町会 御中

課題解決WSプロジェクト (地域の課題解決プロボノプロジェクト)

－最終報告書－

2019.08.31

スケジュール

これまでのワークショップ整理結果、事例調査、今後のアクション案、および中間報告の討議を踏まえたアクション案をとりまとめ、本日を最終報告とさせていただきます

本日

タスク	スケジュール											
	6月			7月					8月			
	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26
マイルストーン		★ キックオフ (6/24)	★ ワークショップ (6/29)					★ MTG (7/29)				★ MTG (8/31)
1 ワークショップ準備												
2 ワークショップ実施												
3 ワークショップ結果整理・分析												
4 アクションプラン検討												

I. 課題解決ワークショップの整理結果

II. 中長期的なアクション&事例紹介

III. 直近で取り組むべきアクション

背景・目的（前提理解の確認）

課題解決ワークショップを通じ、町会コアメンバーの課題認識を共有することで、地域課題の解決を支援させていただく

南新宿町会の概要

項目	概要
対象エリア	代々木2丁目の一部、3丁目の一部
活動拠点	葵会館
構成会員数	計171会員 個人75+マンション組合14+企業82 (エリア全世帯：約1,200世帯)
コアメンバー	廣田会長、鹿濱副会長、福與副会長、福与総務部長ほか（役員26名、うち常任理事9名）
組織体制	総務部、交通部、防犯部、防火部、保健衛生部、青少年部、女性部
活動内容	餅つき大会（1月）、新年会（1月）、バスハイク（5月）、花火のタベ（7月）、渋谷区総合防災訓練（9月）、南新宿まつり（9月）、大運動会（10月）、渋谷フェスティバル（11月）、町内夜警（12月）
近年の出来事	・代々木小学校廃校（2015年） ・公務員宿舍閉鎖

町会の現状（チーム理解）

地域

- ☑ 公務員宿舍閉鎖や代々木小学校廃校に伴い、地域内の子供が減少。子供はいても、長く住んでくれない
- ☑ 賃貸・分譲マンションとの関わりを広げる余地がある印象。住人像を知りたい

活動主体

- ☑ コアメンバーの世代交代を進める必要があるのではないか
- ☑ 町会の存在意義や目指す姿を、町会メンバーで共有できていない

活動内容

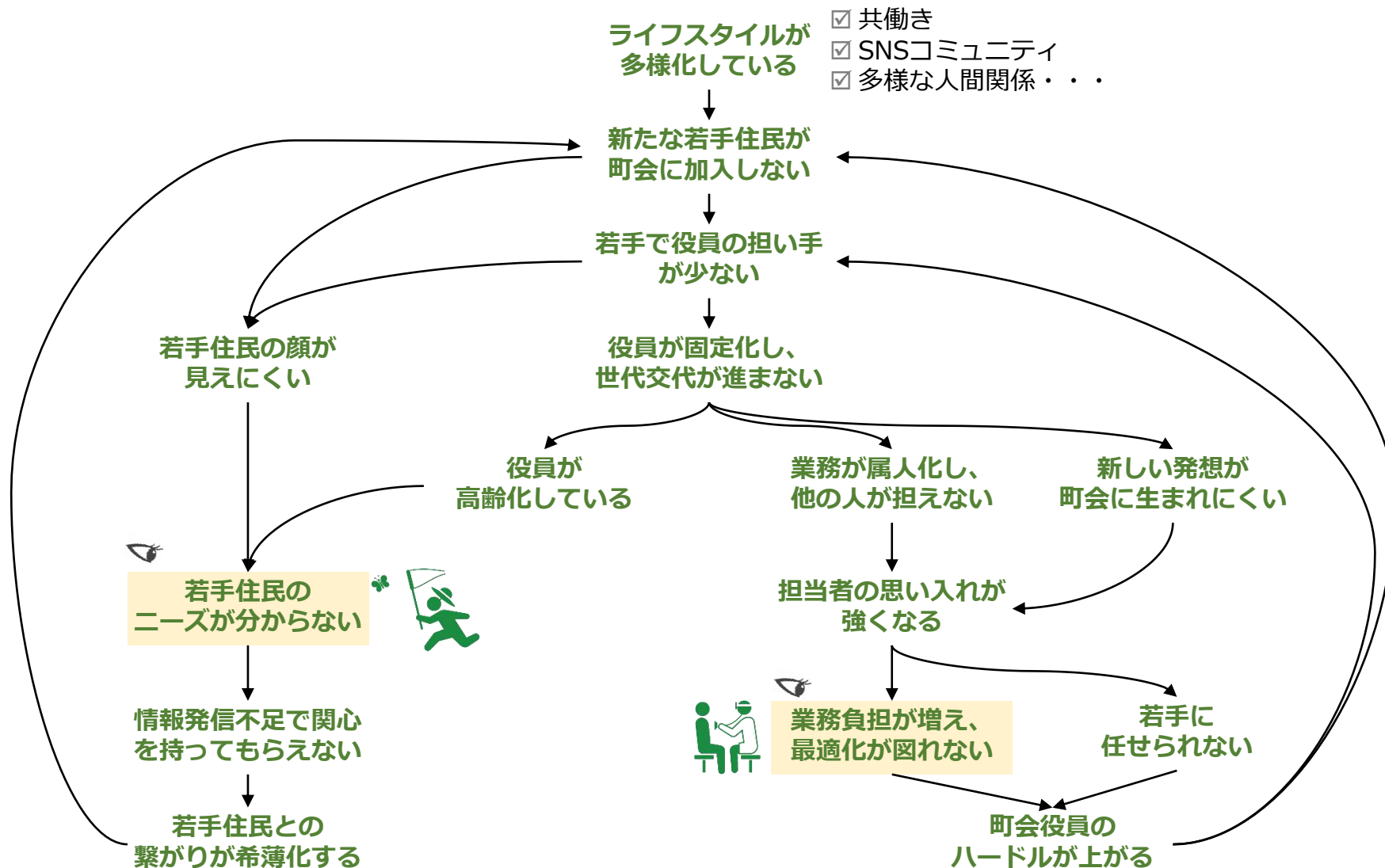
- ☑ 子供たちにいい思い出を持たせたい。一方で、高齢の役員の労力を減らしたい
- ☑ 企業会員や地域包括支援センターとの関わり方を発展させていく必要がある
- ☑ 夏祭りは1,000人以上が参加する

課題解決ワークショップを通じて、
町会コアメンバーの課題認識を共有、目線を合わせる

ワークショップで出てきた課題・解決策を、分類・整理した（詳細別紙）

	現状課題	解決策の方向性（仮説）
環境 (地域)	☑ 子供や若者の人口が少ない ☑ 交通の便が悪く、施設が使いにくい ☑ ホームレス、ごみ、獣害の対策が不十分 ☑ 飲食店の客のマナーが悪い	☑ 町会のステークホルダーとの関係構築・働きかけの強化（自治体、商店等）
参加者 (町会員)	☑ 町会員が少ない。特にマンション住民との接点が少ない ☑ イベントの参加者が少ない ☑ 会費を払っていない住民も多い ☑ マンション管理組合や企業会員との交流が少ない ☑ 若者、母親同士、外国人が集まれる場がない	☑ 住民マーケティング見直し（誰に？何を発信？） ☑ 既存会員との関係構築強化 ☑ 新規会員の巻き込み施策立案・実行（マンション管理組合との交流、情報発信ツール整備など） ☑ 各世代のニーズにあった場の提供
活動内容 (町会活動)	☑ 業務内容がブラックボックス化しており、誰がかかわることができる状態ではない ☑ 業務負担が大きい。イベント数が多く、準備も手間がかかる。1人あたりの業務量が多い	☑ 町会業務の棚卸 ☑ 業務の標準化・効率化 ☑ 年間開催イベントの見直し・最適化
活動主体 (町会役員)	☑ 町会役員が高齢化・固定化している ☑ 仕事や町会の担い手が不足している ☑ 役員以外で町会活動を手伝ってくれる人が不足している ☑ 町会の将来像を共有できていない	☑ 町会の役割・将来像の見直し ☑ 若手役員の登用と権限委譲 ☑ ライフスタイルに合わせた柔軟な参加を認める（短時間参加など）

主要課題の因果関係を整理すると・・・



町会の解散事例と課題

昨年末から今年にかけて、福井県では構成員の高齢化及び後継者不在を原因として相次いで町内会が解散。背景には運営負担の大きさが挙げられる

町内会の解散事例

- ☑ 福井県福井市内にある2つの自治会が、2018年末～2019年初頭に相次いで解散。高齢により運営負担が大きくなったためという
- ☑ 福井県市町振興課によると、合併に伴う解散以外で、住民が居住しながら自治会がなくなるのは県内で初めて

地区の自治会が維持できない高齢社会の困難

福井市で2自治会が解散、役職の負担大きく

福井新聞

2019/01/19 15:00

シェア 853

ツイート

一覧

Bl

コメント

27

印刷

A

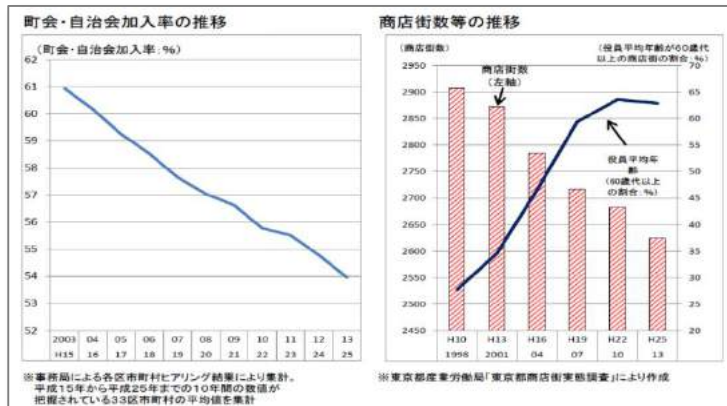
A



2018年末に自治会が解散した福井県福井市東侯町＝1月11日（写真：福井新聞）

町内会の維持に関する課題

- ☑ 町内会の成り立ちは太平洋戦争時に遡り、国の末端組織として住民の安否確認や防犯等の機能を担ったことに始まる
- ☑ 現代も行政の下請け的な組織として、道普請や街路灯の設置、お祭りの運営、防犯、行政との渉外、ゴミ集積所の管理等様々な機能を担っている
- ☑ しかしながら、以下のような課題のもと町会の加入率は年々低下、不要論も起こる
 - － ライフスタイルの変化の中、町会運営負担の大きさ
 - － 行政機能の下請け化（＝民間サービスが相応の大家で負担すべき機能を安価で町会が請け負っている状況）



出所:東洋経済オンライン 2019年1月19日

出所:「東京の自治のあり方研究会 最終報告」
コメントは報道記事を元にサービスグラント作成

I. 課題解決ワークショップの整理結果

II. 中長期的なアクション&事例紹介

III. 直近で取り組むべきアクション

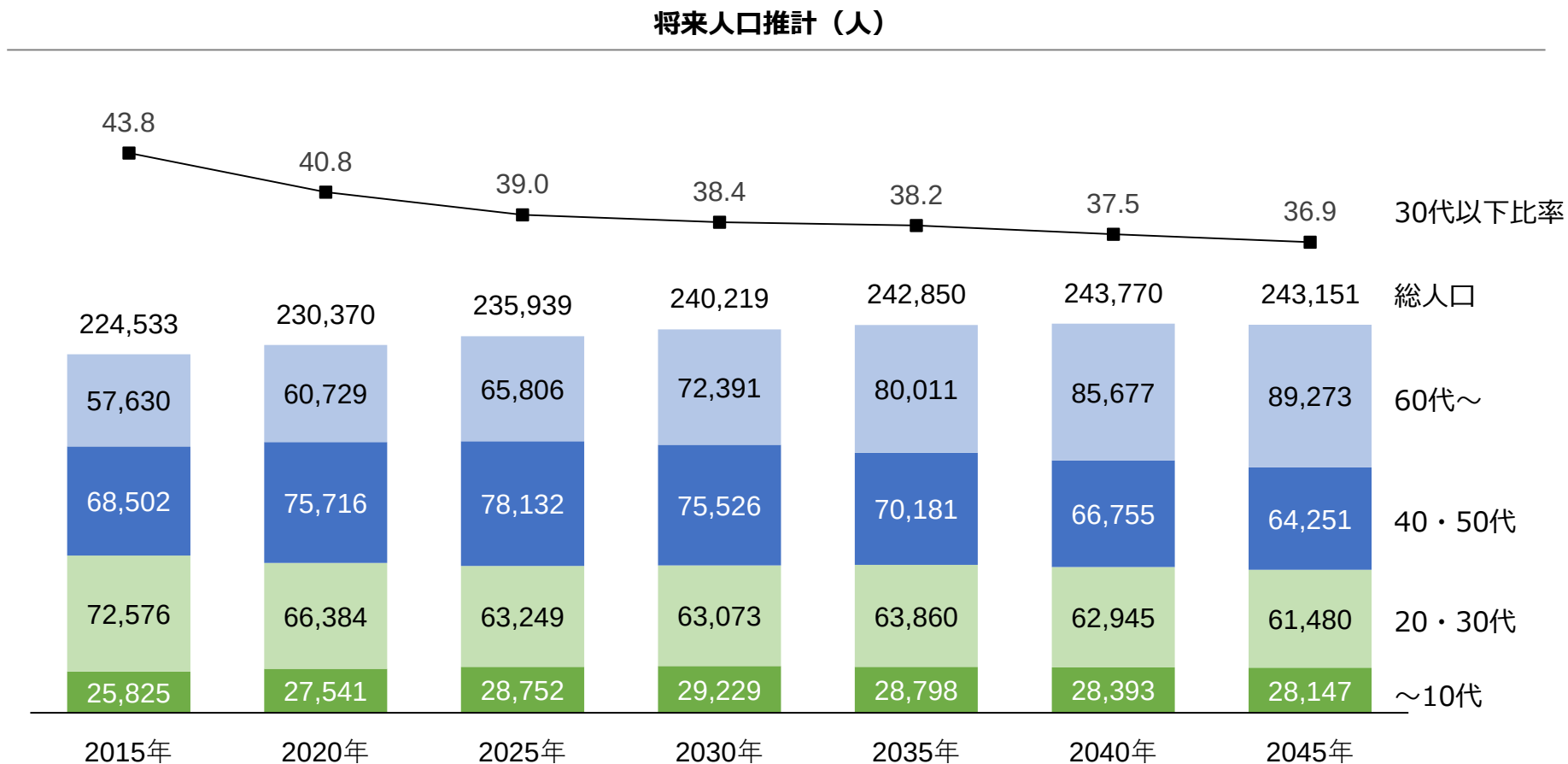
今後の検討方向性

今後、下記4ステップに分けて推進してはどうか。各ステップの具体的なイメージを、具体的な事例も交えながら、本日は議論させていただきたい

	Step1 (3ヶ月)	Step2 (3ヶ月)	Step3 (1ヶ月)	Step4
	現状分析 (何が起きているか?)	「ありたい姿」の策定 (目指す理想像は?)	施策の策定 (ギャップをどう埋める?)	施策の実行・検証 (成果を体感?)
目的	☑ 役員間の現状認識共有 ☑ 町会員・未加入住民の課題・ニーズを把握	☑ 町会の理想の姿を描く ☑ 標準モデルや他町会事例調査を通じ、南新宿町会理想像を策定する	☑ 「ありたい姿」と現状のギャップを埋めるため施策を立案する	☑ 効果を検証しながら施策を実行する ☑ 小さな成功体験の積み重ねること、改善の実感を持ちながら推進 ☑ 方針の修正・改善
検討事項	☑ 役員視点の調査 - ワークショップ (済) ☑ 役員以外視点の調査 - アンケート (定量) - インタビュー (定性) ☑ 調査結果の分析 ☑ 調査結果の役員間共有	☑ 事例調査 - 文献調査 - インターネット検索 - 他町会インタビュー ☑ ありたい姿策定 - ワークショップ - アンケートを通じた妥当性検証	☑ 施策策定 - 既存業務棚卸し - ワークショップ - 施策の優先順位付け - 役割分担やステークホルダーとの連携など各種調整	☑ 施策の実行 - 施策実行支援 ☑ 施策の検証 - アンケートを通じた妥当性検証 - 指標モニタリング - 検証結果に基づく方針見直し
				

環境分析①－渋谷区の将来人口－

30代以下の比率は減少の一途をたどる一方、60代以上は増加傾向が続く見込みである

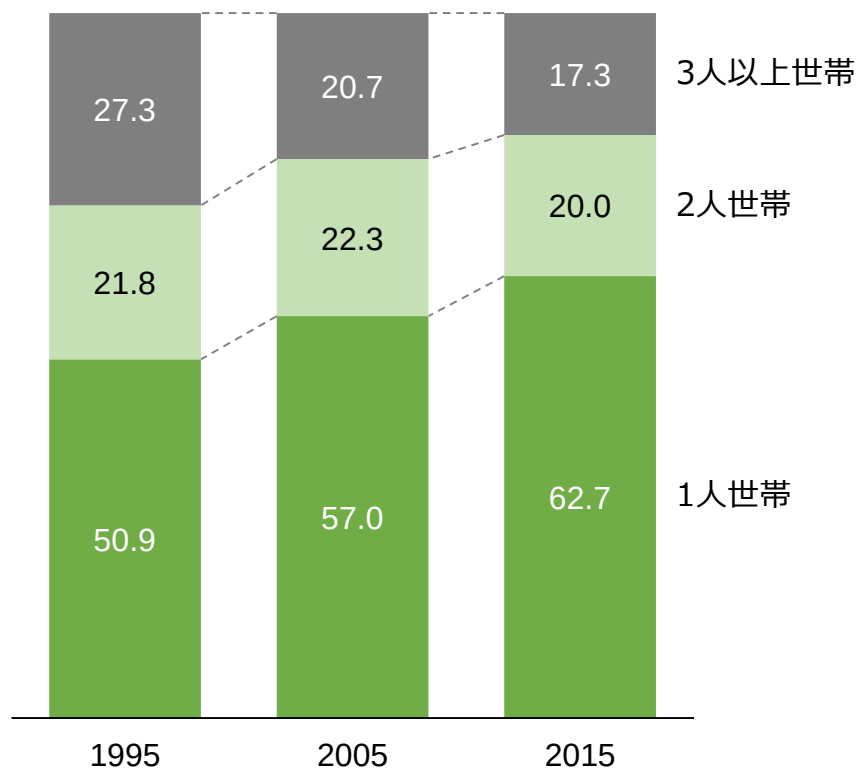


出所：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）

環境分析②－渋谷区・世帯構成/町会加入状況－

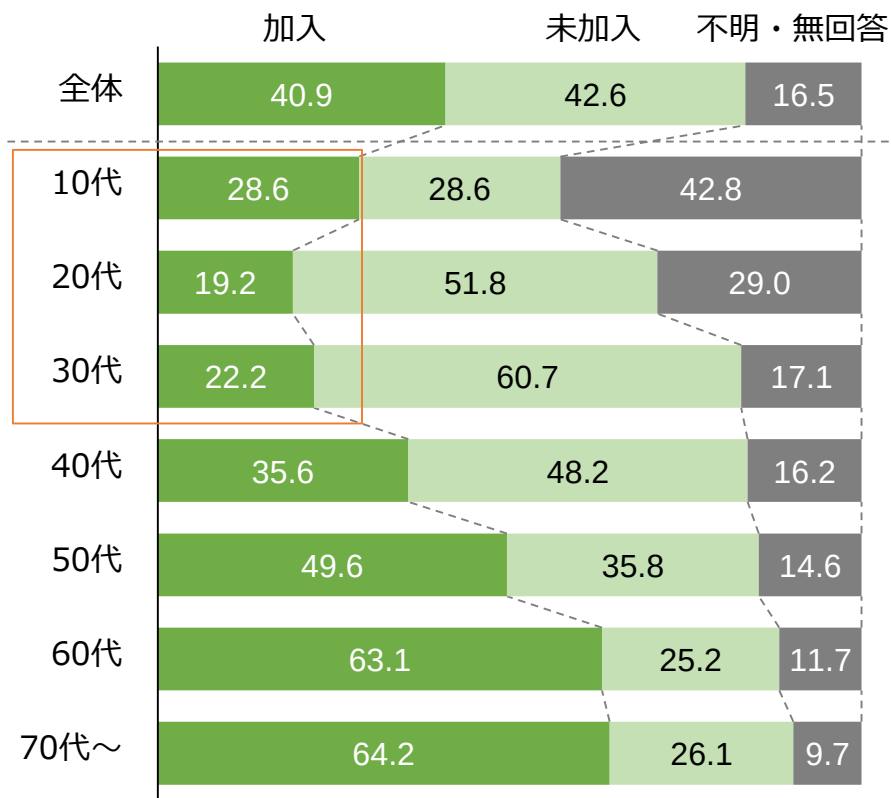
渋谷区では、単身者が増加し、ファミリー層が減少。30代以下の町会加入率は30%に満たない。ファミリー層だけではなく、若い単身者の巻き込み強化も必要なのではないか

世帯構成推移（%）



出所：渋谷区「渋谷区まちづくりマスタープラン」

年齢別町会加入状況（%）

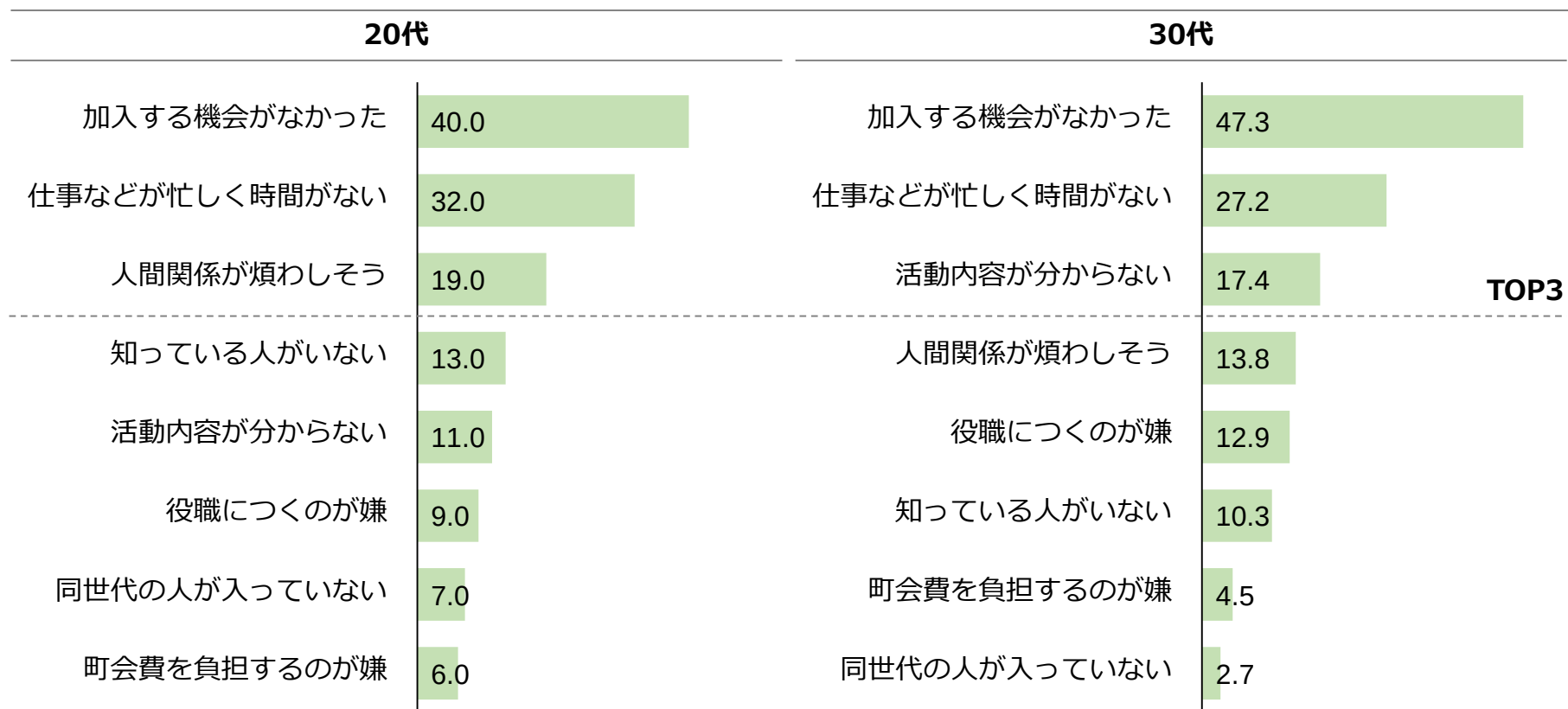


出所：渋谷区『平成30年度 渋谷区区民意識調査 報告書』

環境分析③－渋谷区・町会未加入理由－

20代・30代未加入者のうち「加入する機会がなかった」人の割合が最も高い。南新宿町会の実態を、インタビューやアンケート調査を通じ、深掘りしていく必要があるのではないかな

町会未加入の理由（％）



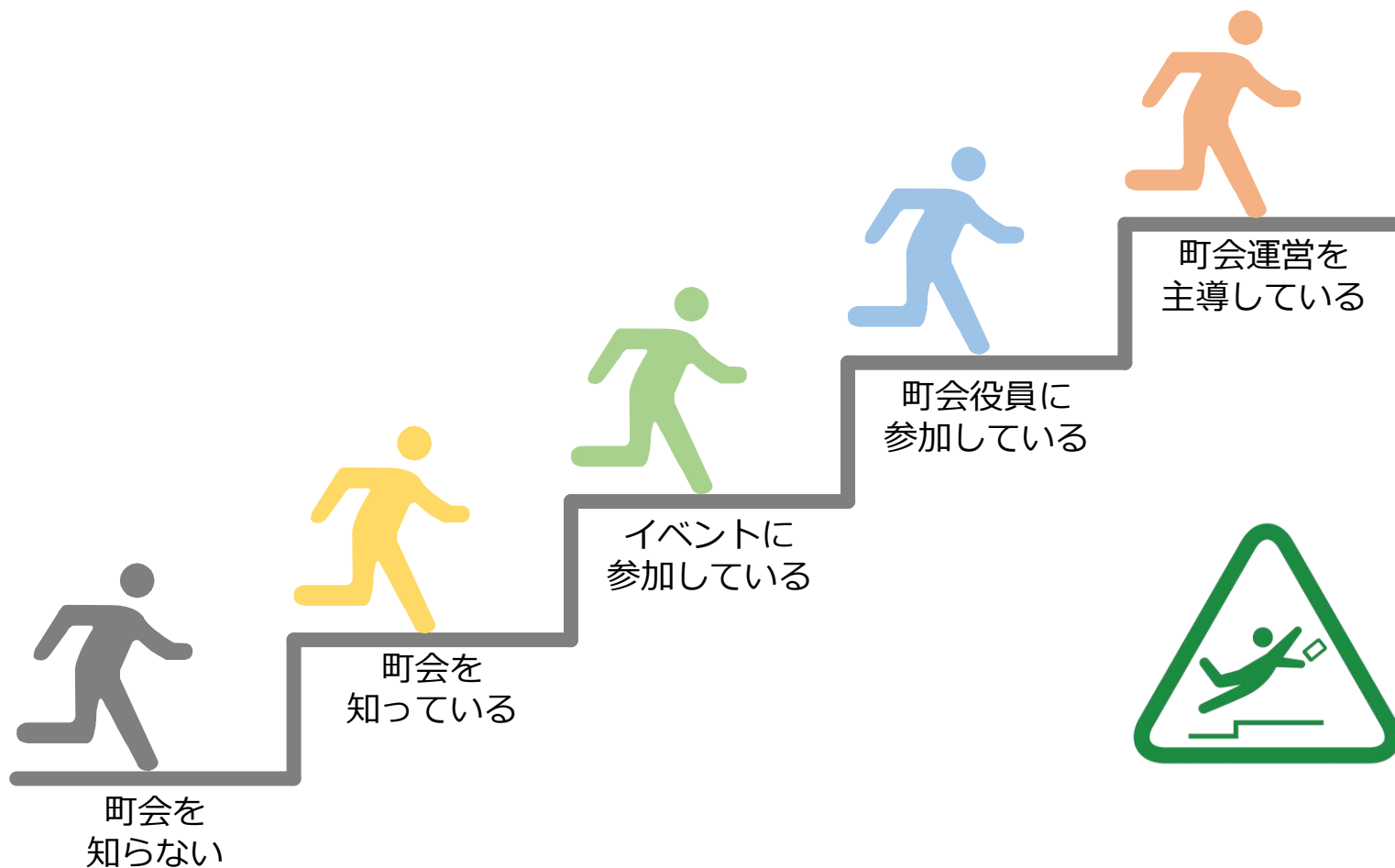
出所：渋谷区『平成30年度 渋谷区民意識調査 報告書』

(余白)

町会活動の参加ステップ

町会活動に参加するにあたり、住民ごとに参加ステップが異なる。参加ステップに応じた施策が必要である

参加ステップ



町会活動の棚卸

数多くの町会活動が行われているが、住民層の変化に応じた活動見直しが必要ではないか。
「南新宿に住んでよかった」と住民に思ってもらえるような活動になっているか？

活動実施状況（平成30年度）

実施日	イベント
4/6～15	春の全国交通安全運動
4/29	定期総会
5/20	バスハイク
7/28	花火の夕べ
8/21	南新宿まつり実行委員会
8/26	櫓組み立て
9/1	渋谷区総合防災訓練
9/14～16	祭礼・南新宿祭
9/21～30	秋の全国交通安全運動
9/22	櫓解体
10/11～20	全国地域安全運動
10/21	千駄ヶ谷地区町会連合大運動会
11/3～4	渋谷フェスティバル
12/28～1月末	町内夜警
1/14	餅つき大会
1/17	防災点検の日
1/26	防災倉庫内資器材点検
1/27	町会 新年懇親会
3月	新入学児童へのお祝い品贈答

出所：平成30年春号 南新宿町会ニュースより抜粋

各活動の主なターゲット層（仮説）

年齢層	世帯構成		
	単身	夫婦	家族
70～	役員活動 バスハイク		高齢者を中心 にした活動
60～			
50～	イベント なし		お祭り・運動会
40～			
30～			
20～			
～20			交通安全 町内夜警 餅つき 子供を中心 にした活動

いかに接点を作るか？
（長く住むとは限らない）

イベント見直しできないか？
（同じ子供でも乳幼児と小学生の親ではニーズ異なる）

町会の機能・役割

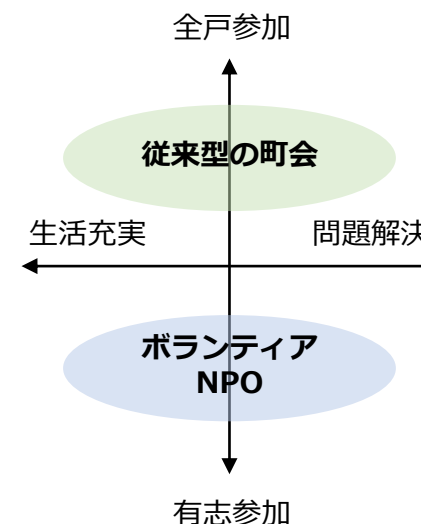
町会活動のテーマは多岐にわたる。今後、南新宿町会が若い世代も巻き込みつつ、どのような役割を担っていくかを検討していく必要があるのではないかと

標準的な町会・コミュニティ活動テーマ

- ①生活充実のための活動
 - <文化、スポーツ、趣味の会>
 - ・コミュニティ祭、盆踊り
 - ・読み聞かせの会
 - ・地域史の編集
 - ・ソフトボール・野球、運動会
 - ・ウォーキング、マラソン、ハイキング等の大会
 - ・各種趣味の会
- ②地域問題解決（まちづくり）のための活動
 - <地域福祉の充実>
 - ・老人給食サービス
 - ・寝たきり老人、独居老人の友愛訪問、リハビリ法講習
 - ・老入会と子ども会の交流
 - <まちの安全確保>
 - ・自主防災組織づくり
 - ・愛の防犯パトロール
 - ・交通安全
 - ・人にやさしいまちづくり
 - ・道路、池、崖などの危険箇所の点検
 - <生活環境の整備>
 - ・ごみ集積所の管理、運営
 - ・ごみの分別収集
 - ・生活騒音、ペット対策
 - ・河川、道路、公園、生活排水跡の清掃

- <青少年の健全育成>
 - ・有害図書の点検
 - ・愛のパトロール
 - ・青少年教育学習
- <地域計画づくり>
 - ・コミュニティカルテ作成
 - ・まちづくり計画交流
 - ・先進地見学、交流
- ③組織の運営
 - ・ニュースの発行
 - ・集会所の管理、運営
 - ・コミュニティ会議の開催

町会・コミュニティ活動の類型



町会の特性

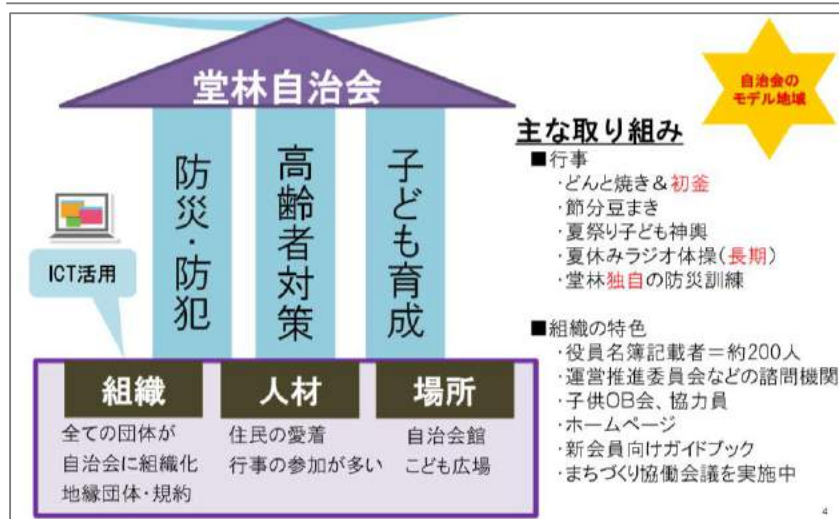
- ☑ 一定の地域区画をもち、その区画が相互に重複しない
- ☑ 世帯を単位として構成
- ☑ 原則として全世帯加入（加入の権利がある）
- ☑ 地域の課題に包括的に関与
- ☑ 行政や外部の第三者に対して、地域を代表する組織

出所：山崎丈夫著『地域コミュニティ論』（自治体研究社）

事例①：静岡市岡地区堂林自治会

「皆で作ろう安全で安心な温かいまち堂林 ～話・和・輪で共に生きる 互助の精神～」を謳い、「防災・防犯」「高齢者対策」「子ども育成」を3つの柱にITを活用して活動中

取り組み事例



2019年3月10日 / 最終更新日: 2019年6月23日 M.Saitou

『ふれあいバーベキュー大会』は人の絆を深めることが狙いの防災訓練です！

2019年9月23日 / 最終更新日: 2019年11月3日 M.Saitou

LINEを使ったグループトーク拡散中@堂林自治会

新たに始めた堂林自治会のブログを、SNSと連携させるため『堂林自治会』という名称のLINEグループを作成してメンバーを集めています。中高生や大学生はもとより、大人の間でもLINEを使って無料通話やメッセージのやり取りをしている人がたくさんいます。グループトークは、グループに参加しているメンバー全員でトークできるため、相談や話し合いに活用できます。ほかにも写真などのアルバムをメンバーで共有できるグループアルバムや、グループメンバーで利用できる掲示板のような機能があるグループノートなどがあります。

LINEはメールよりも簡単で、写真や動画、スタンプを使うことで、言葉では伝わりにくい感情や気持ちをストーリーに表現できる利点があります。最近では災害時の緊急連絡手段として、LINEを活用する学校や地域もあるようです。(詳細はこちらから)☞

人と人との繋がりがふれあいを大切にして『話・和・輪で共に生きる』なんてことは、堂林に限らずどこでも目指していることだと思います。高齢者を含めた多くの人たちが、スマホを持参する機会になってきていますので、使えるものは上手に活用して広めていきたいと思っています。

出所：清水区岡地区堂林自治会および静岡市ホームページ

事例②：タワーマンションエリアの町会・自治会活動

タワーマンションエリアでは、独自の自治会やNPOを結成し、コミュニティ活動を工夫している

豊洲（アーバンドックパークシティ豊洲自治会）



- ☑ 「アーバンドック パークシティ豊洲の住民に対し、マンション価値、及びアーバ人生・生活の価値を高めるサポートをソフト中心に実施する。」事をミッションにおき、多くの住民にとって住み続けたいマンション、そして、住民外からは、住みたいマンションを目指し、経年劣化するマンションをソフトの面で価値を上げていく
- ☑ 各世代の交流を目的にコミュニティクラブを設置（BGクラブ、レディースクラブ、園芸クラブ）

出所：各団体ホームページ

武蔵小杉（NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント）

エリマネって？

武蔵小杉周辺で「エリマネ」という名称で親しまれている「特定非営利活動（NPO）法人小杉駅周辺エリアマネジメント」は、武蔵小杉再開発地域のまちづくりのための活動をする組織として、大規模マンションが計画された頃、川崎市が主導して2007年に組織されました。

その後建設された大規模マンションに住民が住み始め、2009年頃から住民主導による「住みやすいまちづくり」を目指した活動が始まりました。現在では、会員マンションは9棟、約5000世帯を数え、多くの住民が活動に参加しています。（2016年5月現在）

2016年5月撮影

コスギオープンカフェ

中環区が計画していたこすぎコアパークにおけるオープンカフェをエリマネが実行しました。中環区のまちづくりの実証事業の一つとして継続する予定です。

防災ワーキンググループ

こすぎの大学

エリマネは、皆さんと同じこのエリアに暮らす住民によるボランティア活動をベースにして運営されています。進化する武蔵小杉とともに活動はますます広がっていますが、それに伴うスタッフはまだ不足しています。武蔵小杉をより良い街にするエリマネの活動に、是非参加しませんか？参加希望の方は裏表紙の連絡先に一先お問い合わせください。

事例③：渋谷区の目指す姿

渋谷区まちづくりマスタープランでは、渋谷区基本構想の実現を目指し、渋谷区に住む人・働く人・学ぶ人・好きな人それぞれの価値観や質に焦点をあてて、20年後の都市像を検討

渋谷区基本構想における分野別基本構想

A それぞれの成長を一生よろこべる街へ。 【子育て・教育・生涯学習分野】

多様な「ちがひ」を持ったあらゆる人々が、一生を通じて育つ、育てる側の両面にかわりを持ち、生涯に渡って成長をよろこべるような街となることを目指します。



E 愛せる場所と仲間を、誰もがもてる街へ。 【空間とコミュニティのデザイン分野】

住む人、働く人、訪れる人など、様々な人々が多様な空間の中にも、それぞれのかわりを感じられ、心の拠り所となるべき場所や仲間を持てるような街を目指します。そのためにあらゆる主体との協働によるまちづくりを推進し、街の魅力の最大化を図っていきます。



B あらゆる人が自分らしく生きられる街へ。 【福祉分野】

この街に暮らす誰もが社会から孤立せず、自分らしい人生を送ることができるよう、人と人とのかわりや多様な人々とのつながりを大切に、お互いに支え合える街となることを目指します。



F あらたな文化を生みつける街へ。 【文化・エンタテインメント分野】

渋谷区に集まる多様な人々との文化的交流を促進し、歴史・伝統の継承とともに、あらたな文化創造の可能性を追求しながら、文化の共存と融合による多様な可能性に満ちた街を目指します。そうした多様性や寛容性を持った渋谷カルチャーの魅力を世界に発信し、一層の洗練とさらなる発展を目指します。



C 思わず身体を動かしたくなる街へ。 【健康・スポーツ分野】

渋谷区自身を「15 分の運動場」と捉えて楽しみながら街歩きができたり、生涯を通じてスポーツに関われる機会があったり、住んでいるだけで自然と健康になれるような、運動やスポーツが暮らしに溶け込んだ街となることを目指します。



G ビジネスの冒険に満ちた街へ。 【産業振興分野】

ビジネスの種類や規模が異なる多様な企業や団体とのつながりを大切に、協働によりお互いの能力や価値を引き出し合えるような街を目指します。また、あらたなビジネスへの挑戦をしたいと考えている様々な産業人にとって、可能性を感じられるような街を目指します。



D 人のつながりと意識が未来を守る街へ。 【防災・安全・環境・エネルギー分野】

多様な人が住み、訪れる街で安全と安心を確保するために、そうした人々の知識やノウハウを活かすことが都市のサステナビリティに結びつきます。人と人とのつながりと人々の意識が暮らしや環境を守っていきけるような「しなやかでタフ」な街を目指します。



20年後に目指すべき 未来の都市像

- ☑ 子どもや高齢者をはじめ誰もがいきいきと成長・活躍している
- ☑ 健康的な都市生活がアクティビティを生み出している
- ☑ 誰もが環境や防災に配慮し持続可能な都市が実現している
- ☑ 世界を魅了する多様な渋谷らしさを体感できる
- ☑ 渋谷発の文化とビジネスが刺激に満ちた都市を創出している

出所：渋谷区「渋谷区まちづくりマスタープラン」

その他参考事例

【メディア】

－NHK: 「難問解決! ご近所の底力 (NHKアーカイブス)」

https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009010491_00000

※書籍版: NHK 「難問解決! ご近所の底力」 班『難問解決! ご近所の底力』 (大和書房)

※地域に発生しているさまざまな問題について、困った住民が、各地の先進事例や専門家の助言に学びながら議論を深め、みずからの目標を定めて取り組む過程を追った番組

－東洋経済「『町内会』の担い手がますます減りそうな理由」

<https://toyokeizai.net/articles/-/158910>

－Live MiMi「東京では町内会や自治会がなくても上手く行く理由」

<https://livemimi.com/?p=2106>

【自治体による町会ポータルサイト】

－札幌市「マチトモNavi」 (例)

<http://www3.city.sapporo.jp/shimin/shinko/>

－京都市「自治会・町内会 NPOおうえんポータルサイト」

<https://www5.city.kyoto.jp/chiiki-npo/jichikai/>

※町内会の活動を行政側が情報収集して紹介 (掲載) している。

【町会連合】

－板橋区町会連合会

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/002/002144.html

※町内会の上位組織での活動

－新宿区町会連合「シンジユクイレブン」

<https://shinjuku11.jp/>



出所: 札幌市

南新宿町会の役割は？

南新宿町会が果たすべき役割、提供する価値、存在する意義を明確にする
(未来に向けてみんなが奮起できる夢のあるもの)

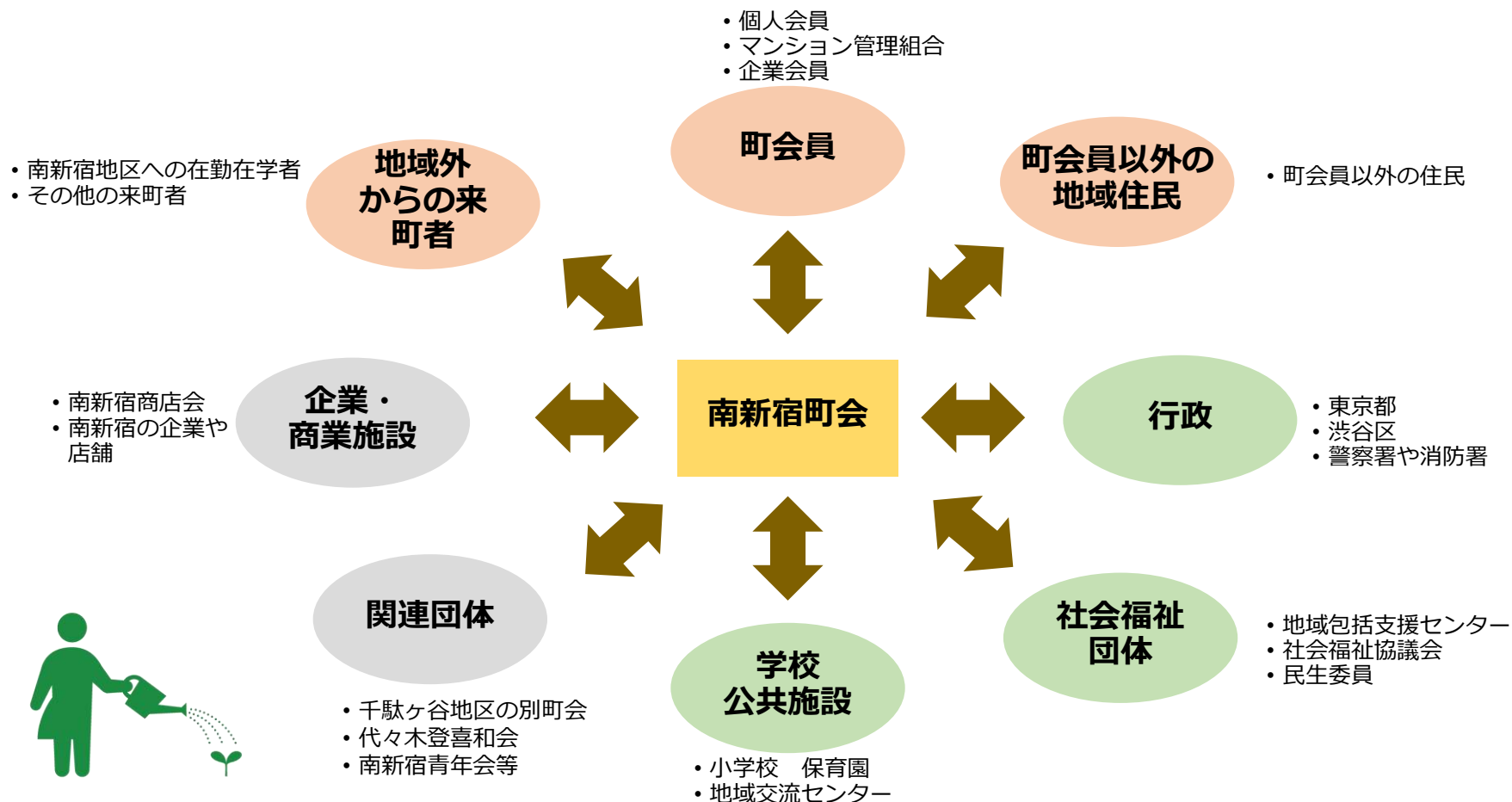
町会の存在意義 (ミッション)	地域環境の改善活動を通じ、継続的に南新宿地区の価値向上を図る
「ありたい姿」 (ビジョン)	南新宿地区に職住する人たち、集う人たちがお互いに尊重し合い、安心して快適に過ごせる環境を実現する

策定による期待効果

- ☑ 目指す姿を関係者で共有、推進力が強化される
- ☑ 活動計画検討時の拠り所となる
- ☑ 他団体の人たちとの協力関係を築くきっかけができる
- ☑ 共感・納得した人達から活動に加わる人が出てくる

町会を取り巻くステークホルダー

新宿南町会は、町会員のほか公共団体や学校、商店会等の関連団体、企業、在住在勤者等と結びついている。各種ステークホルダーを巻き込んでいく必要がある



事例① : コミュニケーションの工夫

目的や対象層に応じ、受け手の視点も考慮しながら、施策立案を進めていく

町会加入パンフレット



出所 : 札幌市、札幌市中央区

子育て世代向け施策



出所 : 東京新聞 (2019.7.2)

高齢者向け施策



出所 : 北海道新聞 (2019.6.25)

事例② : 地域資源の活用

地域資源（産業、文化、歴史、食など）を活用したコミュニティ形成も有用である

墨田区

練馬区



出所 : 各団体ホームページ

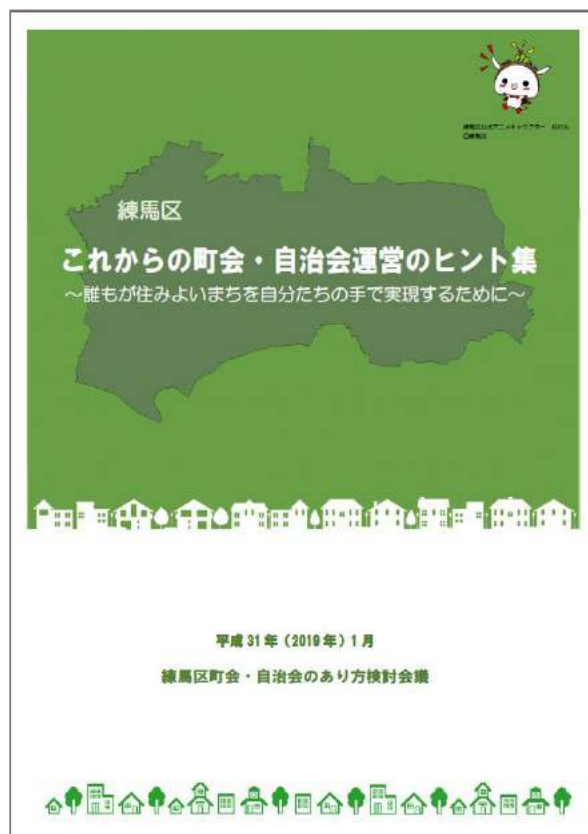


出所 : 小竹町会「こたけぐらし」

事例③：自治体による知見活用

練馬区では町会運営ノウハウを、23区で初めてとりまとめている
短期視点と中長期視点で取り組む施策の参考になるのではないかな

練馬区「これからの町会・自治会運営のヒント集」



1. これからの町会・自治会運営のヒント集『困りごとからの集引』

町会・自治会の運営で、こんな困り事はありませんか？ 町会・自治会の運営で、困ったときには、それぞれのページのヒントや取り組み例が、参考になります。

町会・自治会の意味を尋ねられて困ったり、うまく説明できずに困っている	7
町会・自治会活動の意味をどう伝えるか？	7
町会の加入者を増やしたいが、どうしたらいいか困っている	
・ 加入が難しい人にどのように働きかけますか？	
新しく引っ越してきた人が町会・自治会に加入しない	13
住んでいるが、町会・自治会に加入していない人がいる	15
地域のことに関心を持てない人がいる	16
・ 加入促進の難しさを感じるのは、どのような場面ですか？	
町会・自治会が何をしているのか伝わっていない	17
イベントなどでチラシを配っても参加者が増えない	18
活動の担い手が足りないが、どう参加を促したらいいか、困っている	
ライフスタイルが多様化し、活動できる時間が合わない	21
子育て世帯が町会・自治会と接点を持てていない	22
定年退職した人などが、町会・自治会活動に関わってくれない	23
活動量が多い・活動費の持ち出しなど、担い手の負担への懸念がある	26
役員会が閉鎖的な人ばかりでなく、困っている	
町会・自治会内で加入促進の考え方に違いがある	19
次の役員を昇つげるのに苦言している	24
地域や住民の状況が変化しているが、何から手をつけたらいいか、困っている	
高齢化する地域で、高齢者の孤立・介護などの問題に対応したい	29
地域に根を据えていない子育て世代の増えているので対応したい	30
災害や犯罪に対して不安が高まる中、防災・防犯の活動を強化したい	31
インターネットの利用者が増えている状況に対応したい	33
区の町会・自治会への支援策、相談窓口がわからない	
練馬区による町会・自治会に対する支援事業	35
東京都や一般財団法人自治総合センターによる町会・自治会に対する支援事業	36

町会・自治会内で加入促進の考え方に違いがある

町会・自治会の活動に対する考え方は人によって異なります。加入促進についても、積極的に進めたい方もいれば、「無理して入ってもらわなくても良い」という考えを持つ方もいるでしょう。声かけやイベントなども、どこまでやるべきかは、人によって様々な考え方があります。町会・自治会の現状や必要な人員について委員で共有したうえで、加入促進の考え方を整理しておくといでしょう。

運営の工夫・アイデア

工夫① 町会・自治会の現状とこれからについて話し合う

町会・自治会が、どうして必要なのか、どのような人に参加してもらいたいのか、話し合ってみましょう。町会・自治会の現状について、加入率（加入世帯数／総世帯数）とその推移をデータで示し、加入状況についての問題意識を共有してはいいかもしれません。現状を認識したうえで、無理なく継続して実行するには、何をどの程度まで行うのか、どう役割分担するのか、話し合ってみましょう。

工夫② 外部への情報発信の準備をともに行う

パンフレット、古紙、ホームページなどの作成や見直しの際に、あらかじめ町会・自治会の意義や活動内容を話し合うことで、理解を深めることができます。また、自分が作成に携わったパンフレットやチラシ、ホームページは、使おう、広げようとの思いに覚醒し、活動の継続・促進につながるのではないのでしょうか。

工夫③ まずは顔見知りになる

日頃から地域活動に関わっていない方とは、お互いに「知らない人」という存在です。知らない人から話されても町会・自治会活動には参加しづらいものです。最初は、近所に住む人として挨拶し、知り合うことから始めることも大切です。日常生活、PTAなどの活動から顔見知りになって、交流の一つの要素として町会・自治会活動に触れたり、地域のイベントに誘う際に町会・自治会を勧めるのも良いと思います。委員の立場としても「町会・自治会へ勧誘する」というのは負担を感じがちですが、「近所で見知り合い、町会・自治会のこと話す」と考えると、気軽に声かけもできるでしょう。

出所：練馬区『これからの町会・自治会運営のヒント集』

成果の測定方法

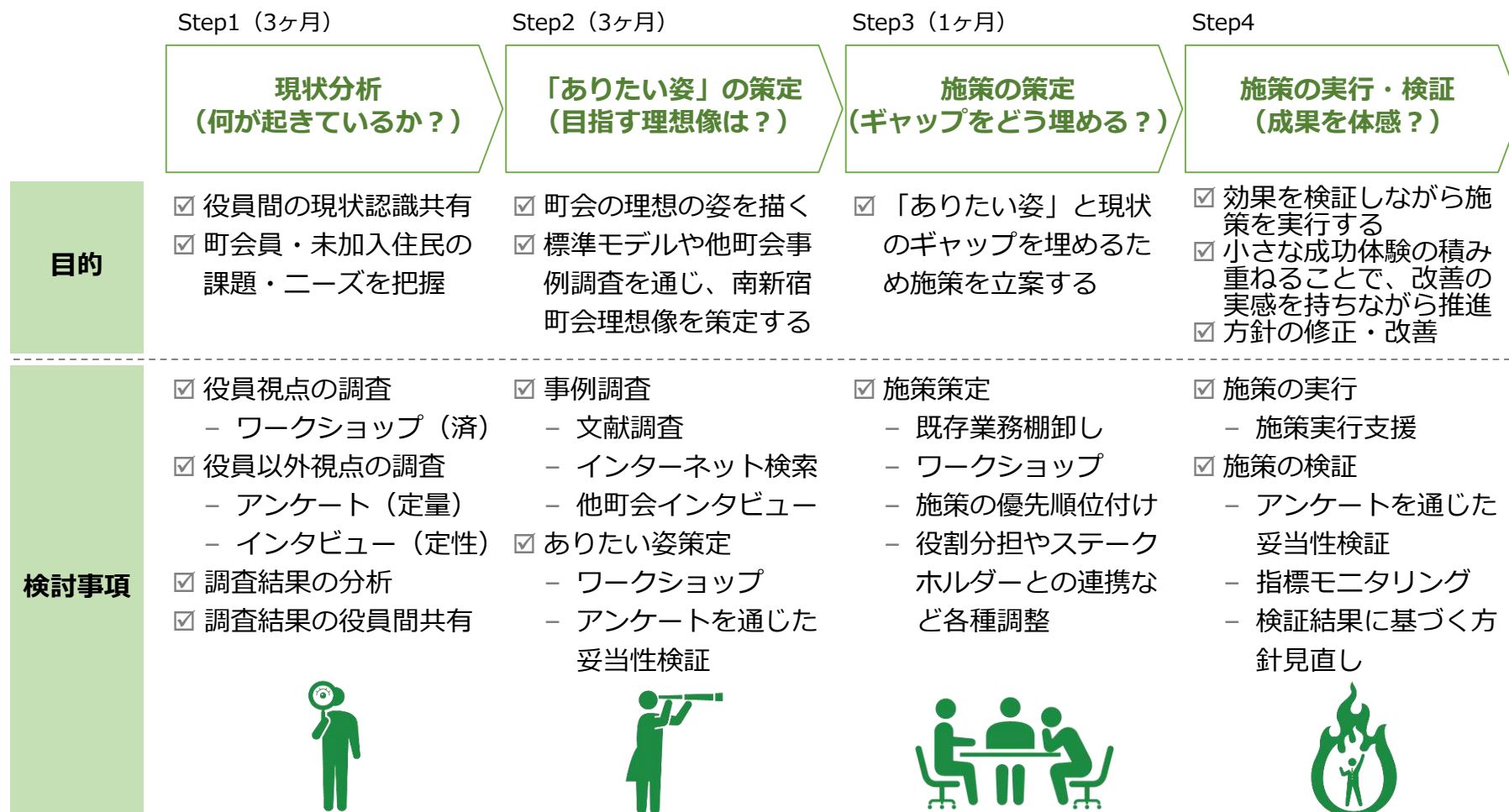
まちのファンを作るような中長期的な視点をもって、複数の観点から成果を測定する必要があるのではないか

成果を測る指標事例

経済的指標	☒ イベント参加者がどれだけ増えたか？ ☒ イベントリピーターがどれだけ増えたか？ ☒ これまで来なかった人がどれだけ増えたか？ ☒ 町会加入者がどれだけ増えたか？
情緒的指標	☒ 居心地のいい場所ができたか？ ☒ まちの雰囲気が変わったか？ ☒ どれだけの人が伝えたくなったか？ ☒ 自分が主体的にリードしたいと思った人がいるか？
社会的指標	☒ 高齢者や子ども、外国人など多様な層が参加できるか？ ☒ まちへの意識の啓発になっているか？ ☒ 好奇心を阻害せず、自由な表現や活動を行える場になっているか？ ☒ まちや社会の課題に対してクリエイティブに対応できているか？
能力の蓄積指標	☒ 協働できる企業、団体、行政とのネットワークができているか？ ☒ 若者の才能を発見できたか？ ☒ 活動がオープンで誰でも参加できる状態にあるか？ ☒ 継続性のある組織ができたか？

出所：シビックプライド研究会『シビックプライド2－都市と市民のかかわりをデザインする』をもとに作成

短期視点と中長期視点の両面から、今後の南新宿町会のあり方を検討してはどうか



(余白)

- I. 課題解決ワークショップの整理結果
- II. 中長期的なアクション&事例紹介
- III. 直近で取り組むべきアクション**

プロボノの視点：南新宿町会の重点課題（初期的）

ワークショップや調査結果から、南新宿町会の課題はコミュニケーション方法だけにとどまらず、町会の活動内容と体制自体が若年層のニーズに即していない可能性があると考える

重点課題

プロボノチーム仮説

イベント内容の 住民ニーズとの アンマッチ

- ☑ 昔から続いているイベントを守り続けている中で、イベントが現役の子育て世代のニーズに合っているのか疑問に感じる
- ☑ そもそも誰に対してどんな価値を届けたいのだろうか？巻き込みたいのがマンション住人なのか、子育て世代なのか、高齢世代なのかでニーズは変わってきそう

役員活動の 負担の大きさ

- ☑ 南新宿町会は非常に活動が充実しており、役員の皆さんには頭が下がる思い
- ☑ ただ、仮に現役世代の自分が南新宿に住んでいたら負担が大きすぎて、役員にはなれないと思う。子育て世帯はなおのことでは
- ☑ 自分の興味のある活動だけ幹事をやるなどならできるかもしれないが、それが既存の会員の皆さんに受け入れられるのだろうか（フルで参加しないと居づらくなりそう）

町会活動の 実態の見えづらさ

- ☑ 自分が住民だったら、町会の活動内容は見えづらいとを感じるかもしれない
- ☑ 「町会費が何に使われているのか」「町会の活動内容は住民である自分にとってメリットがあるものなのだろうか」「一部の住民が楽しんでいるだけなのでは」と感じるかもしれない

「問い合わせメールアドレスの整備」「HPの整備」「イベント集客の強化」
といったコミュニケーションの見直しだけではなく、
活動内容と体制自体を、若年層のニーズに合わせて抜本的に見直す必要があるのではないか？

南新宿町会のあり方の検討

若手住民の巻き込みをまず取り組むべき最重要課題と捉え、若手住民が関わっていききたいと思うような町会のあり方を検討していくことが必要ではないか

最重要課題

若手住民との接点が
少ないため、
新たな担い手が
見つからない

ターゲット 明確化

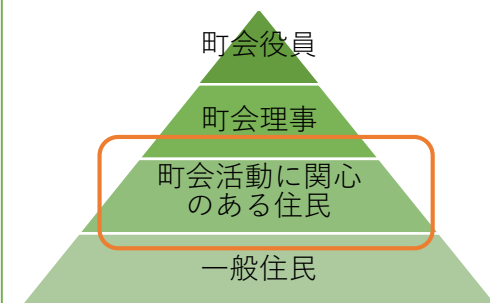
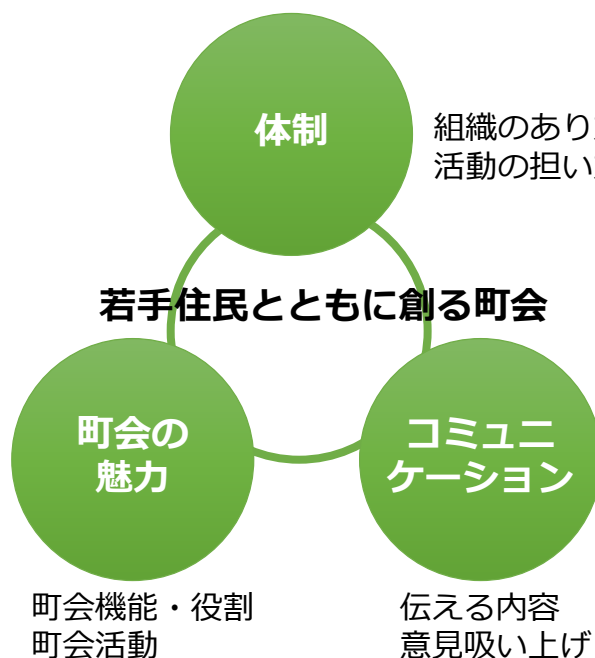
町会の あり方 検討

解決策としての町会のあり方の検討

☒ 子育て世代

☒ 定年世代

(価値化やニーズは異なるので分けて考える)



まずは「町会活動に関心のある住民」を増やすことが重要

①アンケート調査

住民へのアンケート調査を通じて、「町会の住民価値」を住民視点で見つめ直してはどうか

事前設計	配布・回収	
	紙	オンライン
①基本属性 ☒ 年齢 ☒ 家族形態 ☒ 居住区域（一戸立て、マンション等） ☒ 町会やイベントの参加頻度 ☒ 南新宿町会を知っているか	配布方法 ☒ イベント配布 ☒ 集会配布 ☒ ポスト投函 ☒ 学校配布	☒ オンラインツール （Google Form, SurveyMonkey等） ※実施告知が必要
②テーマ別項目 ■世代別ニーズ（子育て世代/定年世代/単身層など） ☒ 町会に対する期待値 ☒ 南新宿に暮らす上での課題やニーズ ☒ 町会参加のハードル ☒ 参加しやすい時間帯 ■役員の世代交代 ☒ 役員に対するイメージ ☒ 役員になることについての関心 ☒ 役員になることについてのハードル ■イベントの見直し ☒ イベントの関心有無、 ☒ イベント参加ハードル ☒ イベントの課題 ☒ どのような雰囲気なら参加し易いか？		☒ 集会所に回収BOX 設置 ☒ イベント時回収 ※アナログ集計 ☒ 特になし ※自動集計
	TIPS ☒ シンプルなアンケートにする ☒ 回答目安時間を記載する ☒ URLをQRコード化して、マンションの掲示板等に貼り付け ☒ 回答者へのインセンティブ（報酬）用意（例：夏祭り時のドリンク券贈呈、図書券贈呈）	

②イベント見直し

別紙参照

多くの住民が、地域やコミュニティに関心を持てるようなイベントを企画することで、住民同士が顔見知りになりやすい場を提供してはどうか

ポイント

- ☑ まずは参加してもらうために情報発信や声掛けなど積極的にアプローチする
- ☑ 開放的で参加しやすい雰囲気をつくり、参加のハードルを下げる
- ☑ 地域に関心を持ってもらうことに重点を置き、地域ならではの企画を練り直し、新しい人々を呼び込む

検討の方向性

イベント（例）

既存イベントの見直し

- ☑ 住民がただ集まるイベントではなく、住民同士がコミュニケーションを通じて顔見知りになれる場となるよう、既存イベントの実施方法を試行錯誤する
- ☑ 多くの住民に関心を示すようにイベントを工夫する
- ☑ 優先度・重要度の低いイベントを一旦廃止することで、役員に余裕を持たせる

- ☑ 防犯×救急救命講座
- ☑ 防災訓練×防災ワークショップ
- ☑ 防災訓練×BBQ
- ☑ 神輿の担ぎ手公募

新規イベントの立案

- ☑ 地域の歴史・地理に関心を持ってもらい、地域コミュニティへの愛着を持ってもらう
- ☑ 住民のスキル・趣味・悩みを活かしたイベントを企画・公募することで、住民同士の繋がりを作る場を提供する
- ☑ 企業会員とのコラボイベントを通じ、企業・住民が互いの理解を深める

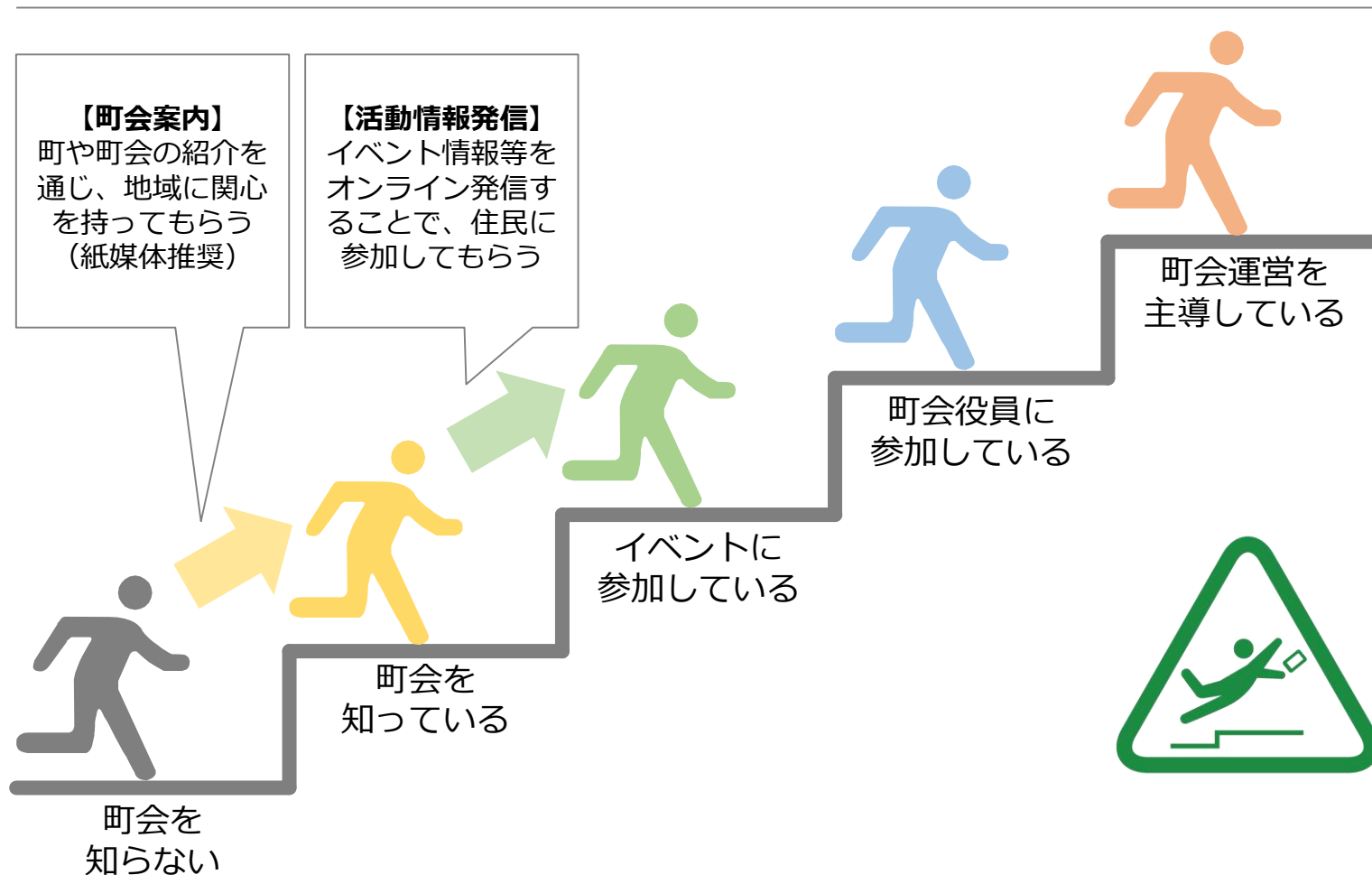
- ☑ 街の歴史・地理教室
- ☑ 男の料理教室、SNS教室
- ☑ おしゃべり相談会（育児等）
- ☑ ミニ交流会（ヨガ、映画鑑賞等）
- ☑ 法人会員への企業見学会
- ☑ ファッション講座やデザイン講座（周辺学校とのコラボ）

出所：練馬区『これからの町会・自治会運営のヒント集』、札幌市『あたらしい町会へ 若い人を巻き込む町内会づくり読本』

③情報発信（1/3）－ターゲット－

町会案内や活動情報発信を行うことで、オープンな町会を目指してはどうか

参加ステップ



③情報発信（2/3）－活動情報発信ツール－

町会活動の情報発信を手軽に行えるツールが豊富にある。広報係を設置して、情報発信を強化してはどうか

情報発信

目的

- ☑ イベントなどの活動情報を公開する
- ☑ 時系列の情報発信のため、ブログ形式が向いている
- ☑ 更新されない「放置状態」になると、町会そのもののイメージダウンにつながりかねないため、継続運用できる見込みがなければ実施しない方がよい

内容

- ☑ イベントの告知
- ☑ イベント開催報告
- ☑ 理事会実施報告
- ☑ イベントスタッフ募集
- ☑ 町会案内

手法

- ☑ 無料ブログサービス（はてなブログ、FC2ブログ、Amebaブログ、livedoor blogなど）
- ☑ 「南新宿商店会」Facebookとの相乗り
- ☑ 町会サイト支援サービス「町会いんぷお」
- ☑ 地域コミュニティアプリ活用（PIAZZA等）

情報発信ホームページ（イメージ）

■ はてなブログ（習志野台二丁目町会）



■ 「南新宿商店会」Facebook



出所：各団体ホームページ

③情報発信（3/3）－ SNSでの情報発信をおすすめしない理由－

twitterやfacebookは、書き込まれたコメントが誰にでも見られるため、万が一誹謗中傷や公序良俗に反するコメントが付いた場合に適切な対応をしないと、炎上リスクがある

SNSアカウントでの情報発信とブログ等の自メディアでの情報発信の比較

特徴	SNSアカウント			自メディア (ブログ等)
	twitter	facebook	LINE公式アカウント	
情報発信のしやすさ	○	○	× ツールがやや複雑	○ (利用サービスによる)
情報の伝わり方	やや狭い範囲 ・ フォロワー ・ twitter内検索	やや狭い範囲 ・ 友達、フォロワー ・ facebook内検索	狭い範囲 ・ 友だち	やや広い範囲 ・ Web検索 ・ 他サイトからのリンク
炎上リスク	大	中	小	小
その他	コメントのやり取りがオープン(誰にでも見られる)なため、荒らしコメントが付いた時の対応が難しい		オープンでのコメント受付を不可にできるので、荒らし対策は実質不要にできる	

参考文献

- ☑ 山崎丈夫（2009）『地域コミュニティ論—地域分権への協働の構図』自治体研究社
- ☑ 読売広告社都市生活研究局（2008）『シビックプライド—都市のコミュニケーションをデザインする』宣伝会議
- ☑ シビックプライド研究会（2015）『シビックプライド2 【国内編】 —都市と市民のかかわりをデザインする』宣伝会議
- ☑ 山崎満広（2016）『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』学芸出版社
- ☑ 宮副謙司・内海里香（2017）『米国ポートランドの地域活性化戦略: 日本の先をいく生活スタイルとその充実』同友館
- ☑ 山崎亮（2011）『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版社
- ☑ 笈裕介（2013）『ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する7つのステップ』英治出版
- ☑ 佐藤滋・饗庭伸・内田奈芳美（2017）『まちづくり教書』鹿島出版会
- ☑ 大野秀敏他（2018）『コミュニティによる地区経営』鹿島出版会
- ☑ 鈴木美央（2018）『マーケットでまちを変える 人が集まる公共空間のつくり方』学芸出版社
- ☑ ハーバード大学デザイン大学院・太田佳代子（2019）『SHIBUYA! ハーバード大学院生が10年後の渋谷を考える』CCCメディアハウス
- ☑ 練馬区『これからの町会・自治会運営のヒント集』
- ☑ 札幌市『あたらしい町会へ 若い人を巻き込む町内会づくり読本』

(余白)

(余白)

Thank you!

